

あ と が き

厚生労働省は1月1日、2009年の人口動態統計の年間推計を発表しました。それによると、出生数はまた減少し、死亡数が増加し、人口の自然減が75,000人で過去最大になるとのことです。出生数は前年より22,000人減少して1,069,000人。2～3年前、出生数が増加したかに思われましたが、やはり少子化は進みそうです。

一方、死亡数は1,144,000人と前年に比べて2,000人増加しています。疾患別に死亡数をみると、第1位はがんで344,000人。3大疾病の中では、がんによる死亡者だけが前年に比べて1,000人増加しています。第2位の心疾患は3,000人、第3位の脳血管疾患は6,000人、いずれも減少しています。がんによる死亡者を減少することが、わが国にとって最大の課題となっています。

がんによる死亡者を減少させるには、食事や運動、禁煙など生活習慣の改善を図ることとエビデンスに基づいたがん検診で早期発見を行い、適切な治療につなげることなどが重要とされています。しかし、現在わが国ではがん検診を受診する人が少なく、子宮がん、乳がんなどが若い世代に増加し、死亡する例が多くなっています。

国は、その対策として「がん対策基本法」を制定し、がん検診受診率を50%に上げ、がんによる死亡率を20%減らす目標を掲げました。その具体的な事業の一つとして、昨年補正予算で「女性特有のがん検診推進事業」を決定し、啓発教材としての健康手帳の配布と子宮頸がん検診、乳がん検診の無料クーポン券の発行を行いました。この事業は、今後も継続される予定です。

本会もがん対策については設備やスタッフの充実を図り、検診・検査の精度向上にも力を入れるなど、こうした事業に協力できる体制を整備してきました。また、がん予防に関する啓発・教育事業として、昨年の12月6日には、「子宮頸がんは予防する時代です！」と題した市民公開フォーラムを東京産婦人科医会と共同で開催しましたが、このような健康教育事業にも今後さらに力を入れていこうと考えています。

今年も本会の年報をお届けする時期となりました。この年報は、1号から社会の役に立つものにしたと考えて作成して参りました。本号で通巻39号になります。この年報を引用文献や比較検討のデータとしてご利用いただいたりして、お役に立っていることを大変喜んでいます。今後も、さらによい年報にするために一層努力して参りますので、どうぞよろしく申し上げます。

ご執筆いただいた先生方には、ご多忙のところ、短時間でデータの分析やコメント等をご報告いただき、本当にありがとうございました。

今後とも、ご指導、ご協力くださいますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

2010年3月

財団法人 東京都予防医学協会
専務理事 山内 邦昭